

## 2021年 日本離床学会 認定試験

### <総評>

2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で、認定試験が延期となり、2021年1月に感染に配慮し、オンライン認定試験が開催された。

形式としては、オンラインで受験者の顔を映し、Google forms に試験の解答を行う形式で行った。初めての試みであるため、事前に模擬試験を用いた接続テストを受験者全員に対して実施し、試験当日のインターネットトラブルはなく、受験者全員が解答を提出することができた。

離床インストラクター筆記試験は、合格率が55%であり、例年より合格率が高い結果となった。要因として、離床アドバイザー1年取得ゼミナールの出身者を中心に、離床アドバイザー資格取得者が増えていることや、インターネット講座の開催により、学習機会が増加し、十分な試験対策を行い試験に臨んでいたと考えられる。離床インストラクター筆記試験の出題範囲は、日本離床学会の教育講座および全刊行物が主な出題範囲となる。正確な机上の知識に加えて、臨床の実践力を問う問題の出題割合が多いことが特徴である。例年同様に5肢択一問題より、5肢複択の問題が多い傾向にあり、解答を絞り出すことに時間を要し、試験の見直しが十分に行えず失点につながっていたと考えられる。

離床アドバイザー筆記試験の出題傾向は、臨床で必要な離床の基礎・応用知識を中心に出题された。アドバイザー試験は合格すれば、当会指定の教育講座、実技講座の受講なしに離床アドバイザーを認定するものであるが、85%正答の合格基準を満たすものがおらず、合格者なしとなった。テキストのみの試験学習ではなく、日々の臨床における実際の症例に対し、離床を実践する知識・技術を網羅することが必要と考えられた。

離床プレアドバイザー筆記試験は、例年通り当会の公式テキスト「実践！離床完全マニュアル2」の内容を中心に出题された。合格率は88%であり、ほぼ例年通りであった。呼吸・循環・脳神経・整形外科に関する基礎知識のほか、フィジカルアセスメントや検査データ・薬剤に関する知識も問われる。また、離床の実践やリスク管理に関する基礎知識に関する設問が中心である。

各受験者には合否通知と詳細な試験結果および採点チャートを通知している。問題の分野別正答率や今後の学習に向けてコメントが記載されているので、是非参照し、臨床への応用、次のステップアップに活かしていただきたい。また、過去に出題された問題の一部を当会ホームページに公開する。出題の形式や傾向など参考にして欲しい。また、実技試験の実技要綱が掲載されたので参考にされたい。

[http://www.rishou.org/qualification/shiken\\_hani\\_yoken/](http://www.rishou.org/qualification/shiken_hani_yoken/)

離床インストラクター取得後には、医療従事者に対する全国規模の教育活動を志す「講師コース」と、患者・家族を含む一般市民の教育を志す「一般市民教育コース」に登録することができる。当会ホームページに詳細が記載されているので、参考にして欲しい。

## 日本離床学会認定試験 合格率

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
離床インストラクター実技試験	5名合格	4名合格	5名合格	未実施	実施予定
離床インストラクター筆記試験	38%	58%	35%	未実施	55%
離床アドバイザー筆記試験	合格者なし	合格者なし	合格者なし	未実施	合格者なし
離床プレアドバイザー筆記試験	96%	80%	89%	未実施	88%

※離床アドバイザーは筆記試験の他に理論コース・実技コース修了による取得も可

### <次回認定試験の予定>

離床インストラクター実技試験	2021年9月実施予定
離床インストラクター筆記試験	2022年1月実施予定
離床アドバイザー筆記試験	2022年1月実施予定
離床プレアドバイザー筆記試験	2022年1月実施予定

### <離床インストラクター筆記試験 対策>

離床インストラクターは離床に関する基礎知識はもちろん、研究データの臨床応用、離床の実践に関する知識など出題範囲が多岐に渡るため、離床アドバイザー取得者にとっても難易度の高い問題となる。よって、基礎知識の復習に加え、離床に関する最新のエビデンスや、各分野のガイドラインにおける関連項目をチェックすることが必要となる。また、症例ベースの臨床的設問が多く、時間配分が難しいのもインストラクター試験の特徴である。基礎問題を正確かつ短時間で回答し、症例問題にしっかり時間を掛けられることも対策として重要である。

### <離床アドバイザー筆記試験 対策>

離床アドバイザーは、当会理論コースと実技コースを修了したレベルと同等の知識レベルが要求される。つまり臨床であらゆる診療科の患者に対して離床を行うための知識、アセスメント、離床を実践するポイント、技術を全て知っていることが求められる。疾患に偏らず、検査データや薬剤に関する問題も一定の割合出題されるため、幅広い分野の学習をお勧めする。また、離床の実践問題の割合についても、インストラクターと同様多く出題されるため、アセスメントを統合した臨床判断を、日ごろから鍛錬する必要がある。

### <離床プレアドバイザー筆記試験 対策>

離床プレアドバイザーは例年同様当会公式テキスト（実践！離床完全マニュアル2）の内容を中心の出題となった。同テキストの内容を中心に基礎事項は確実に正答出来るようにおさえることが一番のポイントとなる。その他、離床の実践問題として、症例問題も一定の割合で出題されるので、過去の問題などを参考に、対策を立てて欲しい。